



報告する原田完会長

不屈

(571号付録)

京都版 第438号

2022年1月15日

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

京都府本部

〒604-8832京都市中京区

壬生下溝町 51-41

(電) 090-8575-9851

fax 075-325-3863

E-mail info@kokubai-kyo

to.com

ホームページ [https://ko](https://kokubai-kyoto.com)

kubai-kyoto.com

新年明けまして おめでとうございます！

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

京都府本部会長 原田 完

新年明けましておめでとうございます。2022年の幕が開けましたが新型コロナウイルス下の2度目の新年も、オミクロン株感染拡大への警戒が求められ緊張が続いています。コロナに直撃され困窮する人の増加も深刻で、各地で相談・支援活動が取り組まれる越年になりました。

2年におよぶコロナ禍は日本の経済や私たちの暮らしと命の危険が抱える多くの矛盾と政府の無策ぶりを浮き彫りにしました。

コロナの無為無策で批判を招いた菅義偉政権に代わり岸田文雄政権が発足したものの、事態打開の道筋は示せず、山積する内外の諸課題に対処する能力を欠いています。私たちの運動も、自粛の中で十分な取組みができない状況で推移してきました。コロナを乗り越え、未来を開く新しい政治、京都府知事選、参議院躍進勝利で国家による犯罪「治安維持法犠牲者への謝罪と人権回復及び補償」実現に向けた運動の推進が求められます。

衆議院選挙では市民と野党の共闘、共産党、立憲民主党、社民党、れいわ新選組の政策協定、政権を目指す新たな野党共闘で戦われましたが、国会の議席では自民党を減らしたものの、補完勢力の議席増で厳しい事態が生じています。政治の弁証法として権力も必死

の策動を行い政権維持に必死の取組みが行われた結果でしたが、新たな政治情勢を作り出したことは明らかです。京都の政治情勢は自民党の6議席から3議席へと半減させたのは、誠実に野党共闘を支えた共産党の奮闘にあつたと思います。

自民党を議席後退させたが、右翼ポピュリズムで閉塞感のある中間層の組織化に成功した自民党補完勢力維新の議席増を利用して、改憲勢力は早期に憲法改悪を狙っています。

改憲に前のめりの自民党が「憲法改正推進本部」を改称して発足させた「憲法改正実現本部」の役員体制が28日までに分かりました。改憲右翼団体・日本会議と一体の日本会議国会議員懇談会(日本会議議連)の中枢メンバーが顔をそろえています。

本部長に就任した古屋圭司政調会長代行は、日本会議議連の会長、事務総長に就いた新藤義孝元総務

相は議連副会長です。最高顧問に就いた安倍晋三元首相と麻生太郎副総裁は議連の特別顧問を、実現本部顧問に就任した衛藤晟一元沖繩・北方担当相は議連幹事長を務めています。

安倍、麻生両氏とともに最高顧問に就いた高村正彦元副総裁は、公明党の北側一雄氏との太いパイプ役として知られ、集団的自衛権行使容認の「閣議決定」や安保法制Ⅱ戦争法を推進し、9条破壊を推し進めてきた人物です。

岸田政権による改憲を阻むたたいは憲法施行75年の今年、大きな焦点です。草の根の運動で岸田政権を包囲し、政権交代を国民多数の声にすることが不可欠です。

4月の知事選挙、7月の参院選は、市民と野党の共闘を進展させ、政権交代の足がかりをつくるたたいであり、私たち「治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟」の役割はより重要になってきています。また、私たちの暮らしの問題で

も岸田内閣の政治は国の基本的な予算規模を示す一般会計の総額は107兆5964億円と、当初予算として過去最大を更新しました。社会保障費として36兆2735億円を計上しました。社会保障費の自然増は4400億円としました。概算要求時の6600億円増から2200億円の圧縮です。診療報酬改定で薬価を引き下げたほか、後期高齢者医療の窓口負担を年収200万円以上の人を対象に現行の1割から2割に増やす制度改悪などで削減しました。

軍事費は5兆3687億円と過去最大になりました。当初予算で5兆円を超えるのは8年連続で過去最大を更新しました。軍事費は21年度補正予算との合計で6兆1744億円となり、国内総生産(GDP)比で1.1%を超えました。

世界のノーベル賞受賞者ら50人以上が昨年12月に連名で発表した公開書簡で「全ての国で軍事費を

2%削減する。地球規模の緊急事態とたたかうために、5年間で1兆ドルを節約する」。が注目を集めました。膨大な資源を浪費している軍拡の悪循環を警告し、人類共通の問題解決のために配分するという提案です。各国の政治が真剣に受け止めるべき積極的な内容です。

岸田政権は、今年3月の核兵器禁止条約の第1回締約国会議への参加も否定的です。唯一の戦争被爆国としての日本の責任が厳しく問われる事態です。

私たち国賠同盟は、自民党と補完勢力による改憲、戦争する国づくり、大企業と富裕層への手厚い保護、歴史の復古を許しません。民主主義の原点ともいえるべき「治安維持法犠牲者への謝罪と補償」をする国づくりを進めます。市民と野党の共闘で政治転換をさせる戦いを前進させる年とするように共に奮闘しましょう。

「治安維持法犠牲者を語る会」を開きました

京丹後支部
支部長 松村 満行

昨年の支部活動はコロナ対応などで、行動が緩やかとなり四苦八苦しましたが、年末に向けて「治安維持法犠牲者を語る会」を開きました。

昨年11月18日、「安達征一さん語る会」開催！

2009年の支部結成以来運動方針に掲げつづけながら、全く開けず推移していました。資料収集ができないが開催できなかった理由でしたが、支部で集めたわずかな足跡資料を報告し、語る会を開くことにしました。

安達さんの略歴は、1904年に久美浜町栢谷で長男として生誕、1926年京都師範一部卒業、1927年から舞鶴吉原小学校・京都市下鴨小学校、京都市室町小学校に転任し、この間、『資本論』、『空想より科学への社会主義の発展』、『貧乏物語』といった著書に目を通し、学校教育に不満を感じていました。

1930年9月、人見亨さんが京都市大鳳小学校に赴任し、2人が中心になって「新興教育京都支部」を結成し、同時に「教労京都支部」（全協一般使用人組合教育労働部）結成の準備をしていたといわれています。『新興教育』（新興教育研究所機関紙）の拡大、配達集金の組織化、月1回の読者会を開き指導していました。

テキストは、青年コミンテルン編『無産身政治教程第一部』、レーニン『帝国主義論』などで、ソビエト友の会京都支部にも参加していました。

1931年8月18日、治安維持法違反容疑で検挙（征一27才）、6月23日に依願退職の形で職を奪われます。（この時点では教労支部は特高に発覚されていない）

1932年10月、谷口善太郎著『幼き合唱』（中央公論社）、『樹のない村』（改造社）発行で、作者・須井一（ペンネーム）の本名を太田典礼の紹介で、安達征一が肩代わりして発行を助けたと言われており、谷善さんが感謝されています。

1941年満州遼陽県事務官、政経書院、満州国協和会に、1945年召集、1947年社会党から衆院議員選挙で当選した太田典礼の国会秘書。

1944年（平成6年）90才で死去、安達征一さんの位牌は東京世田谷区の常任寺に安置されています。（弟・三季生さんより）。

はじめての「語る会」で集まったのは9人でしたが、安達さんの実家の状況や征一さんの弟が法政

大学の法学部長をされ多くの著書をたどられているところばかり、引き続き調査を進めようとの意思統一ができました。

昨年12月4日、「和田喜太郎さんを語る会（2回目）を開催！」

一昨年11月に初めて開催してから約1年が経過し、一部補正した資料をつくり開催しました。和田さんは1941年12月慶応大学文学部を卒業し、1942年1月中央公論社（編集部）入社。1943年9月に治安維持法違反容疑で神奈川県特高に逮捕（入社から1年8カ月、横浜事件開始から1年後、27才）。1944年召集、年初同8月21日横浜地裁で2年の有罪判決（横浜事件では一番早く判決）。

1945年2月7日獄死29才。妹・気賀すみ子さん手記によると、遺体引取り時の様子は、痩せて栄養失調・凍死だと言われています。軍隊への召集で投獄されていることが村中に知れ渡り、非国

民・国賊と言われ、家に投石もされ、あわせて、すみ子さんが母の世話と食糧調達で、月1〜2回実家の峰山町荒山に帰っていたことを、「峯山航空隊の写真撮っていた」「郵便物を投函していた」などと「スパイだ」と事実無根のデマを流され、村8分のような状況だったと記しています。

横浜事件は、4次にわたる再審請求闘争の上で、元被告5人の遺族が起こした「刑事補償請求」に対し横浜地裁は、特高によつて思い込みや暴力的捜査からはじまり、司法関係者による追認によるものと指摘し「警察、検察、裁判所の故意、過失は重大」と結論づけ、請求の限度額いっぽうの補償額4700万円を決定し、「無罪」を明示しました。

この裁判は大きな成果であった

たが、5人の遺族以外は対象でなく、また、根本的には治安維持法が悪法であったことや遺族への謝罪も賠償にも触れず、大きな弱点がありました。

これらのことを語り合い、国賠同盟の署名運動を不屈に取組むことの重要性などを確認しました。

支部総会に向けて、
会員と署名の前進を！

今年は、昨年開けなかった第5回全国大会が6月12〜13日に開催されますし、京丹後支部総会も2年間「書面議決総会」だったので、6月に開催する予定にしております。

全国大会・支部総会に向けて前進できるようにと思っております。請願署名については、昨年未到達は600筆で遅れていますが、有権者比4・4%の20

00筆は4月末を期限にやり抜く決意を固めています。そのためにも、新年早々からの活動として、「2022年新年のつどい」を1月23日に設定し、京都府本部の原田完会長を迎えて、同盟活動を京都知事選・参院選勝利へ貢献できる活動と運動し取り組むことにしています。

訃報

三双順子顧問が死去

三双順子さん（85歳）が1月10日死去されました。治安維持法国賠同盟京都府本部の副会長、顧問として活動されました。京都市議（3期）京都府議（3期）でも活躍されました。



今春上映開始へ 準備進む！

戦前、治安維持法違反容疑で逮捕され、24歳で病死した社会運動家、伊藤千代子（1905〜29年）の生涯を描いた映画「わが青春つぎるともー伊藤千代子の生涯」が今春公開されます。昨年12月1日撮影が終了。京都でも上映への準備が進んでいます。

○撮影終了記者会見&運動・エキストラ交流会
22年1月18日（火）午後1時半全国オンライン・全労連会館ホール

○完成披露有料試写会
日時22年4月2日（土）
会場銀座ブロッサム中央会館ホール